

縄南道通信



平成31年2月1日 発行

2018年度 第10号

「返事！あいさつ！声！ダッシュ！！」

くすは縄手南校 横小路校舎
日比野 功

東大阪市立義務教育学校くすは縄手南校教育理念

～縄南道による～二十歳の成人式に



当たり前の行動を当たり前に行うことができる人の育成

縄手南中学校閉校式 3月12日、くすは縄手南校開校式 4月6日

4月に新年度を迎える日本では、1月は「行く」、2月は「逃げる」、3月は「去る」と、新年が明けると非常に慌ただしくなる様子が伝えられています。学校の文化も同様で、新年が明けると9年生では私立入試に係る準備、引き続き公立入試に関する事柄があり、その他7年生のスキー林間や卒業式・修了式等の行事、また、新しい年度に向けてのまとめや準備と本当に慌ただしく時間が過ぎていきます。加えて今年度末には東大阪市立縄手南中学校と東大阪市立縄手南小学校は閉校となり、4月より新たに「東大阪市立義務教育学校くすは縄手南校」が開校します。縄手南中学校の閉校式は、第31回卒業証書授与式に引き続いて行い（縄手南小学校閉校式は3月15日に第51回卒業証書授与式後に行います）、義務教育学校の開校式は横小路校舎（現在の縄手南中学校）で4月6日（土）10時より挙行いたします。閉校式では縄手南中学校、縄手南小学校それぞれの校旗を教育委員会に返還し、開校式では新たに「くすは縄手南校」の校旗を教育委員会より授与していただくという儀式があります。1月、2月、3月は慌ただしく時間が過ぎるものです。新たな歴史を迎える4月1日の開校まであと60日となりました。

縄手南中学校は1987年（昭和62年）4月1日、母体校である東大阪市立縄手中学校より2年生287名を迎えて開校し、4月7日に新1年生285名を迎え第1回入学式が挙行されました。開校にあたっては、土地を提供していただいた方々や、元縄手中学校区の皆様のご理解とご協力、さらには縄手中学校と旧中学校区3小学校の関係者の方々、市教育委員会当局のご尽力を賜りました。当初、工事が間に合っていない状態で、初めて全教室を使用できた6月1日が創立記念日とされました。開校に際して、「地域に開かれた学校づくりをめざして」という理念のもと、「心温かき人、感性豊かな人、たくましい人」という校訓を掲げ、「明るく、楽しく、美しく」というモットーで学校づくりがなされました。縄手南中学校校歌の1番から3番には、この「明るく、楽しく、美しく」が記されています。また、縄手南校区は楠木正行ゆかりの地であって、縄手南小学校の校章と同様に楠の葉を3枚重ねたものになっています。縄手南中学校の校章は縄手南小学校の校章をデザイン化したもので、楠は大地に大きく根をはり、空に向かって高くそびえたつ大樹になり、生徒諸君もそのように成長してほしいという願いがこもっています。さらに外回りは「人の輪」「平和の和（輪）」を表し、一筆でかけるようにと考えられました。葉の3枚も「明るく」「楽しく」「美しく」をそれぞれ意味しています。「くすは縄手南校」ではこうした思いを受け継ぎ、従来の縄手南小学校の校章を引き継ぐこととしました。開校10周年には、「制服検討委員会」が組織され、2年後の平成10年度新入生より開校当初の詰襟・セーラー服から現在の制服へとモデルチェンジしました。胸のイメージシンボルマークは当時地域より募集し、校区在住のグラフィックデザイナー西田様のご厚意

により制作していただきました。くすは縄手南校でもこのシンボルマークを引き続き使用させていただきます。

このようにすべての事柄には、その時々に関わられた皆様の思いがこもっています。時が過ぎるとそのような当初の思いがどこかに置き去られ、勝手な決め事へと移り変わってしまうことがあります。なぜそこにそれがいいのか、どんな思いが込められているのかと歴史を大切に引き継がなければなりません。「東大阪市立義務教育学校くすは縄手南校」で学ぶ児童・生徒が大人になる頃は、おそらくロボットがさらに活躍する時代となっているでしょう。その「ロボット時代」でも大切にしたいことが「人格形成」の上に立脚した現在の教育理念です。縄手南中学校が開校した際に、未来を見据えて「この学校で学ぶ生徒には、こんな大人になってほしい。こんな社会人になってほしい。」と考えられた理念を引き継いでいます。その理念を現実にするために校訓もイノベーションし、理念達成のための具体的なモットーも創造してきました。まさしくそれが「当たり前」という資質です。この「当たり前」という感覚を高く磨きあげてほしいと思っています。それが「返事！あいさつ！声！ダッシュ！！」というロボットには真似のできない「気力」「精神力」といったものを大切にしたいモットーです。「地域に開かれた学校」は地域の方々とともに「日本一」の学校へと生まれ変わったと、何年後かの未来で話したいと思っています。

3月12日の縄手南中学校最後の卒業式、引き続いて行われる閉校式、そして4月6日に行われる開校式、縄手南校区全体ですべて立派なものであったという歴史をぜひ刻みましょ。

「税金」についてのお話をお聞きしました。

先日の「縄南道集会」で税理士の高田様をお招きし、「税金」についてのお話をお聞きしました。東大阪市では4月より市内全校で小中一貫教育が始まります。東大阪市の小中一貫教育の柱は「未来市民教育」です。また、「未来市民教育」では東大阪市独自の教科書を用いた「夢トライ科」という教科もスタートします。詳細についてはまた4月以降に伝えることとなりますが、この「未来市民教育」という観点からも、本校区教育活動「縄南道」の柱である「人格形成」の観点からも、非常に考えるべき内容のつまった時間となりました。お話は「税金の役割」「税金の体験」「税金のルールは誰が決めているのか」という内容で進められました。「税金の役割」では、具体的に公立中学校に通う生徒1人に、毎月約8万4千円と年間約百万円を超える税金が使われていることを知りました。またいつも当然のように使っている教科書には「この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ、税金によって無償で支給されています。大切に使いましょ。」と記載されていることも知りました。学校で学ぶ生徒諸君には「期待」が込められています。「一生懸命」「ていねい」「ひたむき」を貫くことを大切にする「縄南道」を基本に、再度深く考えてください。以前にも話したことがあります、野球の大会で球場を使用するときも、選手は「球場を使用する」のではなく「球場を使用させていただいている」のです。多くの方々のご厚意や努力、思いに支えられて大会は開催されます。大会に参加する選手は「全力疾走」、つまり「一生懸命」「ていねい」「ひたむき」といった姿勢で取り組むのは当たり前です。高田様にも、「当たり前」の反対は「感謝」ですと伝えていただいたように、何事も表面的なことだけでなく、深く考え意味を知り、その意味に応えることのできる人に成長してほしいと思っています。縄手南は「日本一」を目指しています。「日本一」を達成する源は「人格形成」ですので、今日の話の一人ひとりの大切な振り返りに大きな期待をしています。また、お話をいただいた高田様より、「日頃から、多くの事柄について真面目にきちんと取り組んでおられることがうかがえる素晴らしい学校だと感じました。」と感想をいただきました。繰り返しますが目指すのは「日本一」です。

部活動・コンクール・発表会等表彰

平成30年度歯・口の健康に関する図画・ポスターコンクール 日本学校歯科医会 佳作 吉川ひなの(8年)
剣道 初段昇段 横江柚季(8年)